

資料3 自転車の活用の推進に関して実施すべき施策 について (意見)

東洋大学 矢ヶ崎紀子

9. 世界に誇るサイクリング環境の創出に向け何をすべきか。また、どのように情報発信すべきか。

① サイクリングルートにおける共通表示

矢羽根型路面表示はもとより、休憩施設、更衣室、自転車の組み立てスペース、危険・侵入禁止エリア等のサイクリストに必要な諸施設・サービスについて、全国一律に同じマークで表示し、外国人旅行者にもわかりやすいサイン表示とすることが求められます。

② サイクルツーリズムのデスティネーション(旅行目的地)づくり

観光客に訴求するためには弱者連合では成らず、まず、国際競争力のあるデスティネーションを国内に複数つくる必要があります。しまなみ海道を筆頭にいくつかの候補地域が立ち上がってきていますので、それらを国際観光市場で集中的に売り込むべきです。このために国際的なサイクリング大会(誘致、あるいは、創設)が活用されるとよいと思います。イベントは実施すること自体が目的化する場合がありますが、将来につながるレガシーをどうつくるのかが重要であり、マーケティング戦略に位置づけられる必要があります。

他の地域は、先進地域のノウハウを学び、その影響力を活用して国際舞台にデビューしていくことが効率的です。先進地域の知見・経験を横展開していく施策が必要です。

③ ガイドツアーの質の向上、ガイドの養成

良いサイクリング環境に加えて、その地域の魅力を伝える良いガイドがいないと旅行者の満足度は高まりません。サイクリングツーリズムのガイドを養成する施策が必要であり、また、ガイドツアー全体の品質管理を行うためにも、良いガイドツアーを表彰し、そのノウハウを他の地域にも導入していけるような制度が必要になってくると思います。

P11の実施すべき施策は、ハードやイベントについて中心的に記載されていますが、それらをどう活用して、魅力を伝え、地域が潤う観光消費にまで持っていくかのソフト面も大変重要です。

11. 全ての道路利用者に対して、互いの特性や交通ルールを理解させ、尊重させるために何をすべきか。

- 子どもを保育園等に預けるためにかなり急いで自転車を走らせている子育て中のお母さんやお父さんをよく見かけます。母子手帳交付の際や母親(両親)教室等の保健行政と連携をとる形で自転車運転のマナーについて周知していくことも考えられます。

以上